

十和田の火山活動解説資料（令和5年2月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

今期間、中湖付近の深さ5km前後の領域で地震回数が一時的に増加しましたが、その他の火山活動に特段の変化は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2、図3）

1日と9日に低周波地震が観測され、13日から14日にかけて一時的な火山性地震の増加がみられました。これらの地震の震源は中湖付近の深さ5km前後と推定されます。この領域では観測開始以降、定常的な地震活動がみられています。

より浅い場所を震源とする火山性地震、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 十和田 中湖周辺の状況（2月27日）

・銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和5年3月分）は令和5年4月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

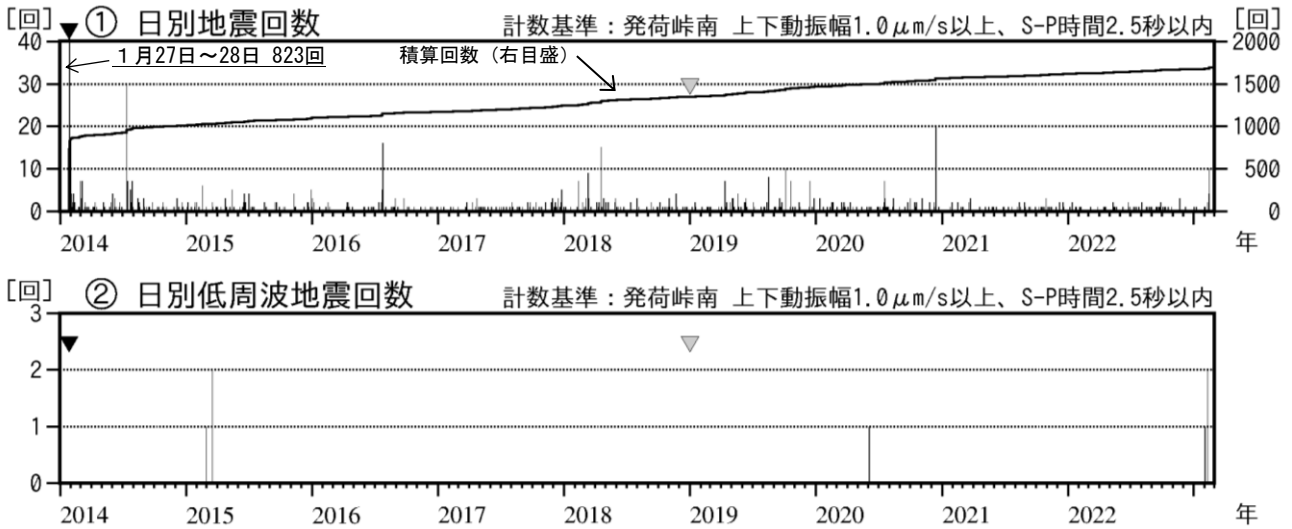


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2023年2月）

- 地震計数に使用した観測点は次のとおりです。（角カッコ内は地震回数の計数基準）
 - ▼観測開始 2014年1月27日～ 防災科学技術研究所小坂観測点 [振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内]
 - ▽ 2019年1月1日～ 発荷峠南観測点 [振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2.5秒以内]
- 2014年1月27日～28日に増加がみられた地震の震源は、中湖付近の深さ5km前後でした。

13日から14日にかけて火山性地震が一時的に増加し（14回）、1日と9日には低周波地震が3回観測されました。低周波地震が観測されたのは2020年6月3日以来です。火山性微動は観測されませんでした。

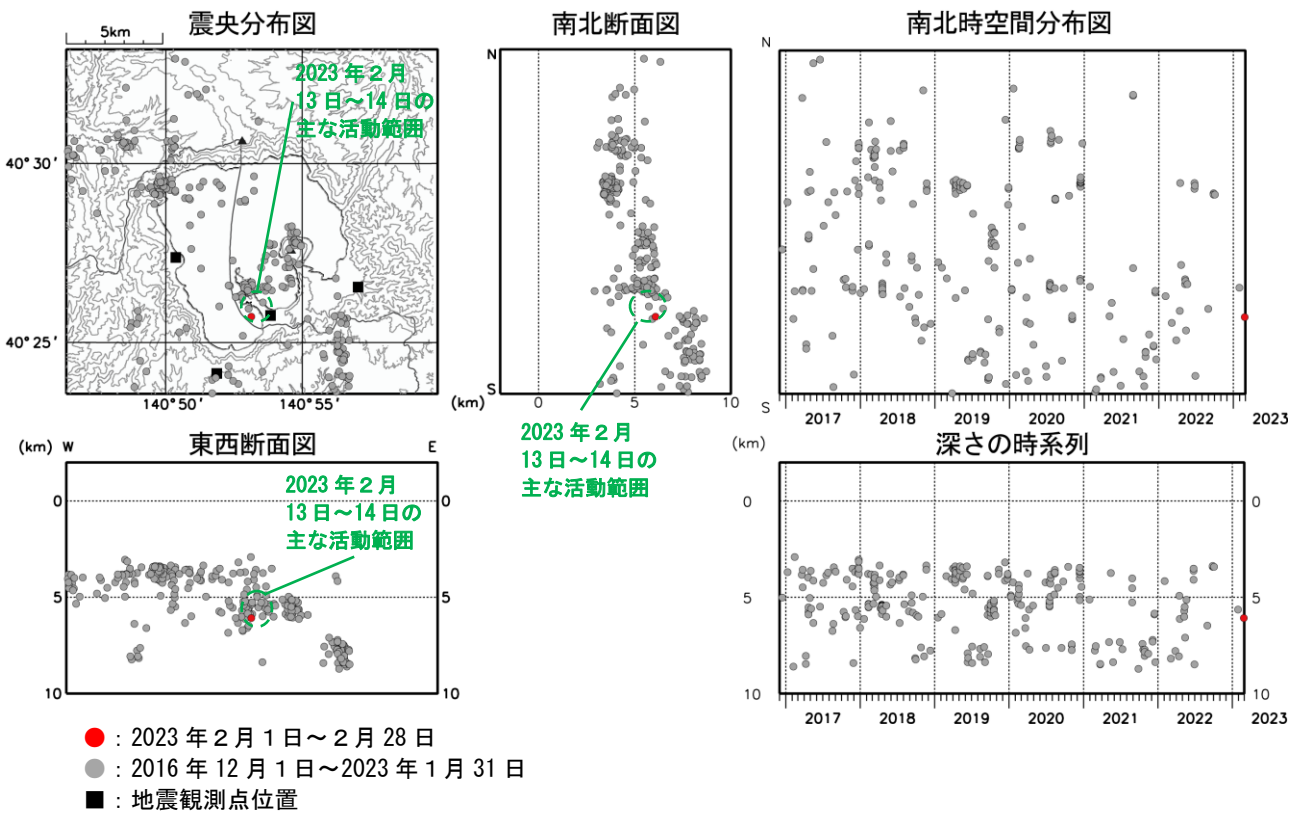


図3 十和田 地震活動（2016年12月～2023年2月）

13日から14日にかけて発生した火山性地震の震源は、中湖付近の深さ5km前後と推定されます。

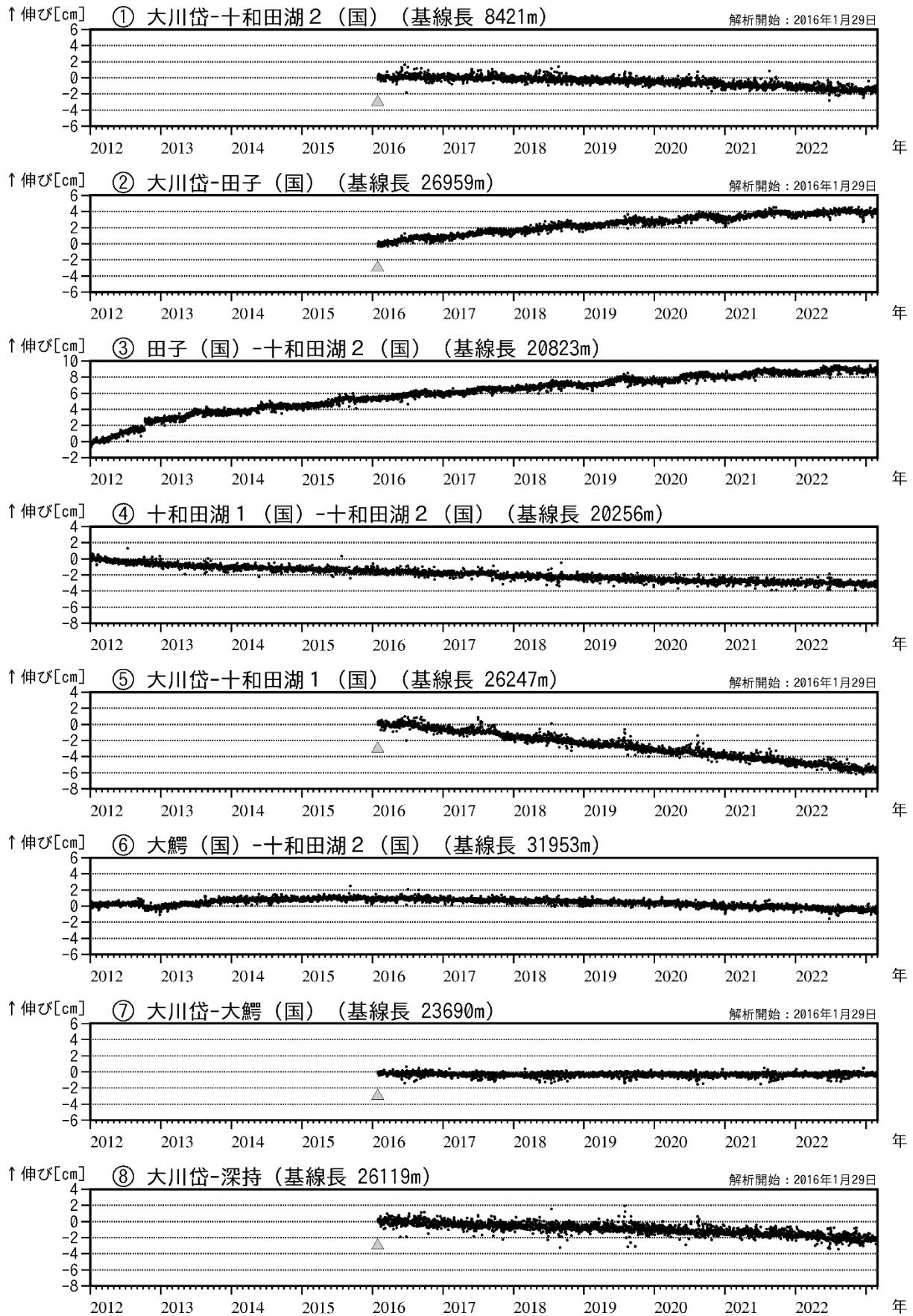


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2012年1月~2023年2月)

- ・①~⑧は図6のGNSS基線①~⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：解析開始を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

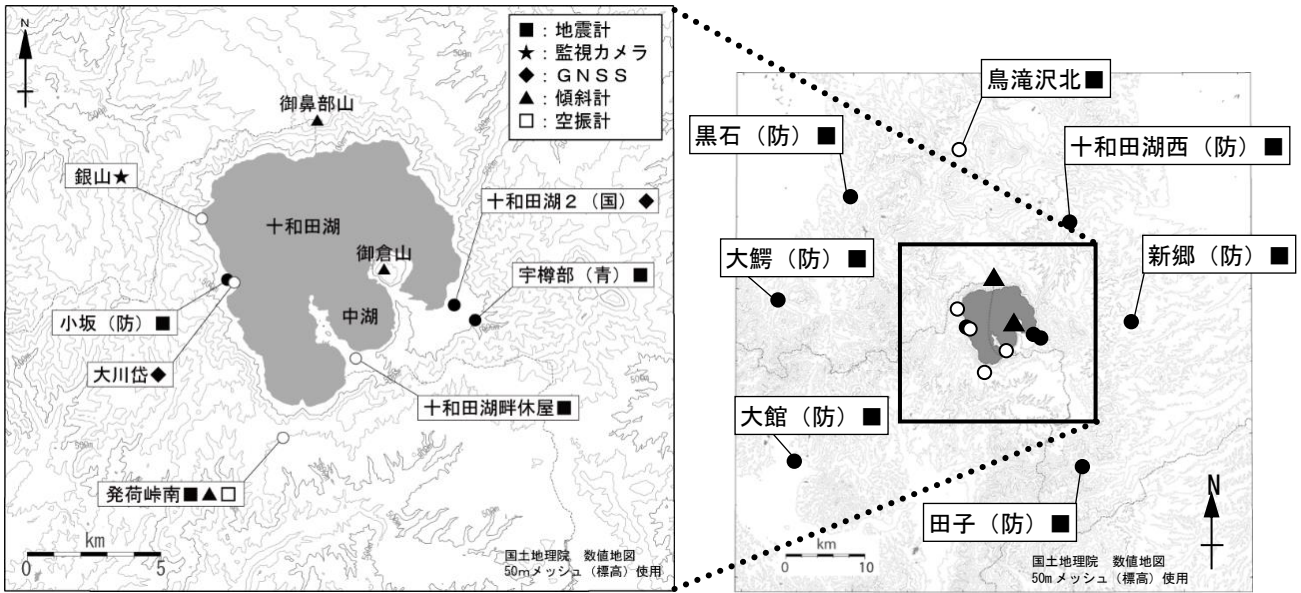


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

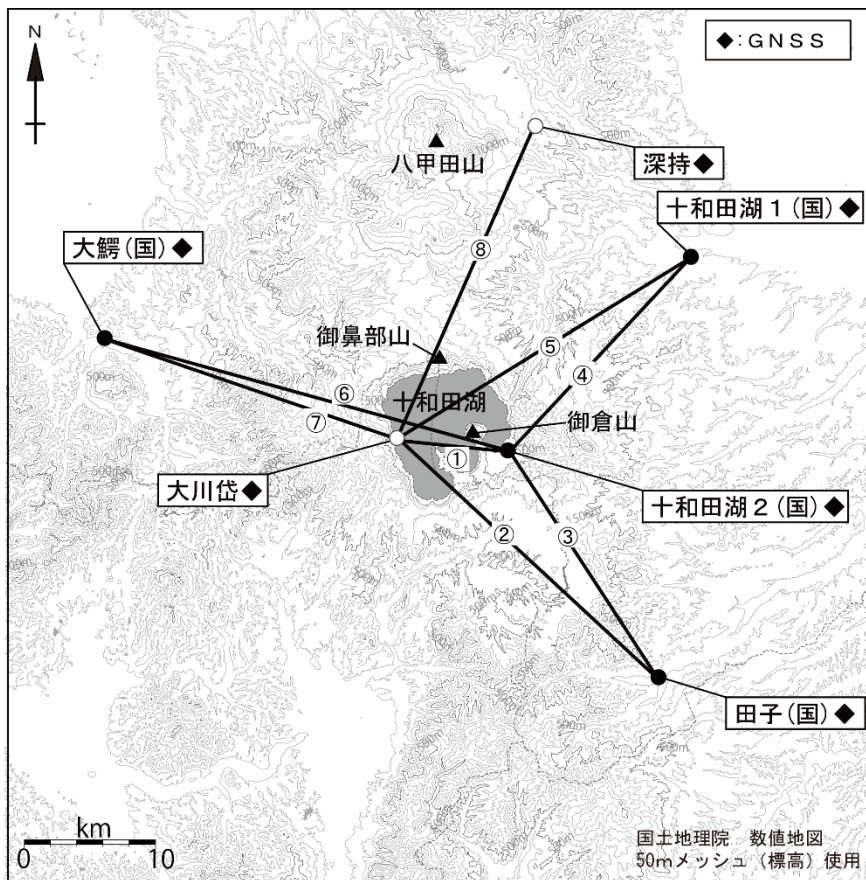


図6 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院